



貴重な出土品からたどる城下町と人々の暮らし

# 発掘でよみがえる久留米城下町

江戸時代、久留米城下の人々はどんな暮らしをしていたのでしょうか？今回は、発掘調査の出土品が語ります。



## 1

1989年8月、三本松公園（日吉町）の発掘調査で人々を驚かせる発見がありました。それまで空襲や開発のため残っていないと考えられていた久留米城下町の道路や町屋の跡などが発見されたからです。当時はまだ、全国でも城下町跡を発掘調査した例は少なく、手探りで調査が進められました。

以来30年が経過した現在、久留米城下町跡では、130地点を超える場所の調査が行われ、城下町でくらしした人々の痕跡が発見されています。



城下町第1次調査（三本松町）

## 1 久留米商人のルーツ

久留米城下町にはたくさんの商家がありました。中でも通町1〜4丁目に住む商人が格上とされています。

これは1621年に有馬豊氏とよゆしが久留米藩主となり、城下町整備に着手した翌年、長町（通町）が4丁目まで延びた時からある家、つまり、久留米商人の先駆けとなった家であるという由緒によります。

商人の経歴を調べると、地元出身者や近郊から移住した者のみならず、豊氏に従い福知山から移住した商人、さらに豊氏の家来として久留米に来たものの、武士を辞め商人となった家もあります。このようなルーツを持つ商人たちが競い合い、久留米商人の名を高めました。

発掘調査では陶磁器など的高级品を持ち、裕福な商人の家であっ



商店の屋号・住所が記された瓶・徳利



たと考えられる場所を度々調査しています。また、町人のみならず武士の家からも、商家の屋号を記し、酒・油などを入れた通い徳利とくくりと呼ばれる瓶類が多数出土しています。

## 2 ものづくりのルーツ

細工町（現中央町）調査では彫金細工師が使った道具や銅片が多数出土しました。呉服町（現城南町）では漆を精製した紙や漆を入れた皿などの遺物が出土し、漆職人が住んでいたようです。



城下町第2次調査（呉服町）出土 漆付き磁器皿





開催期間：令和3年8月21日（土）

～11月3日（水・祝）

休館日：毎週水曜日、第4木曜日

開館時間：10時～18時

開催会場：六ツ門図書館展示コーナー

（くるめりあ六ツ門5階）

令和3年8月1日

◆発行／久留米市教育委員会

◆問合せ／久留米市市民文化部文化財保護課

TEL：0942（30）9322

FAX：0942（30）9714

E-mail：bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp



詳しくは  
久留米公式サイトで！



今回紹介した「モノ語り」を体験できる展示会を開催します！

久留米入城400年記念企画「発掘でよみがえる久留米城下町展」では、発掘調査で明らかになった人々の暮らしについて、出土品をはじめとする様々な資料から照らし出します。

久留米城と城下町の整備は、初代藩主有馬豊氏が入城してから、藩主4代、約80年間にもおよぶ大事業でした。

その足跡を、貴重な出土品のモノ語りを通じてたどっていただけます。こちらの記事と合わせて、ぜひお楽しみください！



出土品 文房具



出土品 化粧道具



出土品 ミニチュアおまごとと道具



城下町第20次調査（細工町）出土 ルツボ



城下町第27次調査（通町7丁目）鍛冶炉



城下町第23次調査（通町10丁目）石敷き（醸造用廻室）



城下町第23次調査（通町10丁目）醸造用カマド



出土品 煎茶道具

通町6・7丁目では、**鍛冶炉**や**大量の溶けた鉄**が出土し、**鍛冶職人や鋳物職人がいた**ことがわかりました。国分村の**笠九郎兵衛**が**発明**した、**ガンズメ**という農具などが**作られていた**のでしょうか。

通町10丁目では半地下式の**大型力マド**や**石敷き**が見つかりました。付近には**醤油や味噌の醸造場**があることから、**石室は麹室**と考えられ、**醸造場の一部**を調査したと考えられる遺構です。

こうした環境の中、同じく10丁目のべっ甲細工師の家から、現株式会社東芝の創業者の一人となる、からくり儀右衛門こと**田中久重**が生まれ、通外町からは久留米餅を考案した**井上伝**が誕生しています。